

氏名	藤 本 俊 治		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	博乙第 1919 号		
学位授与の日付	昭和 63 年 6 月 30 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学位論文題目	海馬の錐体細胞に関する発生学的・電子顕微鏡的研究		
論文審査委員	教授 村上宅郎	教授 西本 詮	教授 堀 泰雄

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

海馬の C_A_3 野の錐体細胞を発生学的，電子顕微鏡的に研究してつぎのような結果を得た。

ラットは生後 1, 3, 5, 7, 9, 12, 14 日目のものを持ちいた。

我々の研究からは生後 1～3 日目にかけてはかろうじて， C_A_3 野が認められるだけでその層状構造もまだわからなかった。錐体細胞もまだ未発達であった。生後 5 日目になると錐体細胞も rER が発達してきて，成熟ラットに近い構造を呈した。しかし，まだこの時期にはシナプスをともなつた苔状線維終末はみられなかった。生後 7 日目になると錐体細胞は rER の分布が多くなった。小さなシナプスも認められた。しかし，棘はまだ認められなかった。生後 9 日目になると rER もゴルジ装置もよく発達してきた。また，錐体細胞の先端樹状突起はその数を増し，その表面にも大型の終末がおわる像が認められてきた。生後 12 日目になると錐体細胞は完全に成熟期の錐体細胞とほとんどかわらない形態を呈していた。また，先端樹状突起はさらにその数を増し，そこにみられる苔状線維終末も大型になってきた。棘らしいものも認められた。生後 14 日目になると錐体細胞はまったく成熟ラットとかわらない像を呈していた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はラット海馬 C_A_3 野の錐体細胞を発生学的に電子顕微鏡で調べたものであるが，同野の錐体細胞が生後 14 日，に成熟ラットのものとかかわらない像を呈し，完全に成長することを示した点で価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。